



魂を一つに 東北六魂祭に 福島あらじまつりが参加

5月26・27日の2日間、盛岡市において大わらじとダンシングソーだナイトを披露
福島市の「元気」をアピールしてきました



東北六魂祭は、平成23年3月の東日本大震災で犠牲となった多くの魂の鎮魂と被災地域の活性化を目的に、東北の六大祭り（青森ねぶた、秋田竿燈まつり、盛岡さんさ踊り、山形花笠まつり、仙台七夕まつり、福島わらじまつり）が堂に集結。第1回の昨年は仙台市で行われ、来年は福島市での開催も検討されています。東北一丸となって復興を後押しします。



▶岩手県庁前で大わらじをお披露目しました

大わらじを担いで
盛岡市の中心街を勇壮に
練り歩きました



伏拝若連・伏拝町内会の 山車フェスタにかける思い

福島市の南部に位置する伏拝では、地元の方々が毎年楽しみにしている、須川南宮諏訪神社の例大祭があります。昨年は、東日本大震災の影響で子どもたちのお囃子は中止になりました。

あれから一年。伏拝若連の皆さんは、子どもたちにつても多く楽しい時間を提供したいと「2012ふくしま山車フェスタ」に参加することを決め、大人も子どもも一丸となって福島への元気を全国に発信しました。新たな一歩を踏み出した伏拝若連会長の尾形和行さんに祭りの魅力を伺いました。

祭りのワクワク感を
地域の活力に！



伏拝若連会長 尾形和行さん



▲祭りに向けてお囃子の練習をする子どもたち

の祭りを広く伝えてきました」
尾形さんたちが常に大切に思っているのは、子どもたちが喜ぶ顔です。「今回の『山車フェスタ』も、参加したらきっと喜ぶだろうと思つて決めました。1年間のプランクがあったにもかかわらず、練習ですぐに勘を取り戻した子どもたちに、何とも言えない頼もしさを感じました」

約2万人の観衆を前に

自分たちの全てを出し切る

山車フェスタ当日は、小学5年生から高校2年生までの20人と、伏拝若連と町内会役員の皆さん25人で参加。沿道を埋め尽くす約2万人の観衆に自分たちが持っている全てを出し切りました。その達成感も祭りの魅力の一つ。「今回、初めて太鼓や笛を担当した子どもたちは、もっと練習してうまくなりたいと思つたはず。私たちは華やかな山車をもっと多くの人に見てもらつて互いの活力にしたいと思つました。若い人から子どもたちへ祭りの魅力を受け継ぎたいと思つています」。世代間の交流と地域の活力が、復興へのエネルギーとなります。